

低炭素合材を製造

太陽光発電の電力活用

前田道路

を計画。これにより、施工業者は、積極的にCO₂排出量低減行動のPRができる。

また、同工場にはフォームドアスファルト装置（LEA B）があり、この技術の使用で、さらにCO₂排出量を削減できる。

同社は、CO₂排出削減目標を2030年度に13年度比50%削減、50年度にはカーボンニュートラルを目指している。

素合材の使用により、GHGプロトコルのスコープ3でもCO₂排出量の大幅な低減が可能となる。

CO₂排出量の低減量を見える化するため、施工業者に
同社独自のアクションレポート（CO₂削減証書）の提供

前田道路は4月から、前田建設が所有する太陽光発電所（茨城県つくば市）が発電する環境価値が付加された電力を活用し、朝霞合材工場（埼玉県朝霞市）でアスファルト混合物製造時に排出されるCO₂を低減した「低炭素合材」の製造・販売を開始する。

今回の取り組みは、東京電力エナジーパートナーの協力で非化石証書付電力供給を実現し、グループ内太陽光発電由来の環境価値を活用した、実質的にCO₂フリーとなる電力による低炭素合材の製造

- ・販売であり、インフロンニア
- ・ホールディングスのグループシナジーを活用したものである。

同工場はこれまでも、骨材などの加熱乾燥に使う燃料を、重油からCO₂排出原単位の小さい都市ガスとバイオマス由来の廃食用油とし、低炭素合材を製造していたが、今回は使用電力をCO₂排出量実質ゼロにすることでさらなる低炭素化を推進する。また、施工業者が同工場製造の低炭

